

# 岡山県真庭林業地域における低コスト伐出の実践と課題

向井公則（向井林業）

## はじめに

健全な森林を創るには間伐が必要である。しかし、間伐を行うには多大なコストがかかるため、放置されている森林が増加している。当社では、徹底した機械化、省力化により低コストを実現し、健全な森林を増やすべく事業をおこなっている。事業の実状を紹介するとともに、更なるコスト削減に向けての課題について論じたい。

## 管理面からみたわが国森林の現状

森林の中に十分な光がさしこみ、灌木（かんぼく）類や草本類がしげっていれば、水源のかん養や土砂流出防止等の森林本来の機能が発揮される。人工林は自然淘汰されないため、木を切ることによってのみその機能が維持される。国産材をより多くの人に活用されることが、低迷している林業を活性化させ健全な森林を増やすことになる。

灌木類や草本類がなく、地表の土砂や木が必要とする養分が流れ出している状態では、雨が降っても、緑のダム機能がなく洪水や土砂崩壊の危険性も増大する。現在の日本では、林の中に入っても暗く、不快感を与える状況の森林が多い。戦後拡大造林された森林のほとんどがこのような状態では水不足や温暖化をもたらさざるを得ない。このような森林は二酸化炭素の吸収機能も損なわれている。しかし間伐は皆伐と違いコストが高い。何より急峻な地形や、森林所有形態が小面積点在型で、路網密度が低いなど等多数の問題を抱えている。

## 当社の取り組みと素材生産業の課題

向井林業では、小ロット分散型の森林と機械化の促進という両立の困難な課題に取り組んでいる。まず、作業用の機械は全て自社の車両で回送している。残存木に傷をつけないため小旋回ベースマシンを採用し、林業機械やトラックに多機能を持たせている。重機搬入・作業道開設・伐採・搬出・作業道整地の作業を一貫して行うによりコストを削減している。また一貫作業は環境負荷も押さえることができる。

経営として指向志向しているのは、地球環境と労働環境に配慮し低コストを実現しているヨーロッパの林業である。